

熱電変換の現在と未来：ZTはどこまで上がるのか？

日時：2016 年 9 月 16 日(金)9：00～13：00 (予定)

【趣旨】

熱電変換は物質の電気輸送現象を利用して熱エネルギーを電気エネルギーに変換する発電技術です。発電の際に地球温暖化ガスを排出しないことから、クリーンな発電技術として注目されていますが、エネルギー変換効率の低さから実用化は進んでいませんでした。

エネルギー変換効率は熱電変換材料の無次元性能指数 ZT で評価されます。長らく壁とされていた $ZT = 1$ を超え、 $ZT = 2$ (エネルギー変換効率 15 % に対応) に達する熱電変換材料が報告されるに至り、熱電変換の実用化の機運がとみに高まっています。

$ZT = 1$ を目標とするフェーズが終わった今、 ZT はどこまで上がるのか、どの程度で実用化に至るのか、そもそも ZT は研究開発の指標となりうるのか、本シンポジウムはこうした疑問に答えるために企画しました。産学官から第一線の熱電変換研究者を招待して、 ZT 向上の指針と最新の研究成果を講演して頂きます。皆様のご参加をお待ちしております。また、一般講演も受け付けますので、ふるってご応募ください。

【招待講演者(敬称略・五十音順)と講演題目】

- ・池田輝之(茨城大)
「組織制御熱電材料の現状とこれから」
- ・小原春彦(産総研)
「未利用熱エネルギー活用技術としての熱電変換への期待と課題」
- ・郭俊清(古河機械金属)
「スクッテルライト系熱電材料及び熱電デバイスの開発」
- ・小矢野幹夫(北陸先端大)
「マクロに見た熱電材料 ミクロに見る熱電変換」
- ・竹内恒博(豊田工大)
「 $ZT > 2$ を実現する条件と新しい熱電材料の開発」
- ・舟橋良次(産総研)
「熱電変換実学のすゝめ」

【世話人】 林 慶(東北大)、中津川博(横国大)、花村克悟(東工大)、大川和宏(東理大)、野村政宏(東大生研)、粟野祐二(慶應大)

お問い合わせなどは hayashik@crystal.apph.tohoku.ac.jp (林 慶) まで

【協賛予定】 日本熱電学会、日本セラミックス協会、日本金属学会